

アグリ筑西

2021 12月号

冬も本番が近付いてきました。年越しに向けて、体調を崩さないように作業しましょう。

県西農林事務所 経営・普及部門
 (筑西地域農業改良普及センター)
 筑西地域農業改良推進協議会 発行
 Tel:0296(24)9206
 Fax:0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！↑

イネばか苗病に 「スポルタック乳剤」が効きにくい事例があります

近年、県内の一部で、イネばか苗病の「スポルタック乳剤」(成分名:プロクロラズ)に対する感受性の低下傾向が認められています(茨城県農業総合センター農業研究所 令和元年度研究成果より)。

令和3年度には、筑西市・下妻市において、プロクロラズ剤を使用したにも関わらず、イネばか苗病が現地で多発した事例が確認されました(筑西地域農業改良普及センター調べ)。感受性低下が疑われる場合には、他の薬剤に切り替えましょう。

なお、県農業研究所による調査の結果、県南地域で採取されたプロクロラズ剤への感受性が低下しているイネばか苗病菌に対しては、「テクリードCフロアブル」(成分名:イプコナゾール・銅)および「ヘルシード乳剤」(成分名:ペフラゾエート)の防除効果が高いことが分かっています。

但し、「ベンレート水和剤」等(成分名:ベノミル)や「トリフミン水和剤」等(成分名:トリフルミゾール)に対する耐性菌が既に県内で確認されているため、これらは使用しないようにしましょう。

表 「スポルタック乳剤」(成分名:プロクロラズ)への感受性低下イネばか苗病菌に対して高い防除効果を確認した種子消毒剤(令和3年11月10日現在)

薬剤名	希釈倍数・使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	成分および使用回数とFRACコード
テクリードCフロアブル	20倍	10分間種子浸漬	浸種前	1回	イプコナゾール(1回)(3)銅(-)(M01)
	200倍	24時間種子浸漬			
	原液(使用量は乾燥種粒1kgあたり原液5mL)	種子塗沫処理			
ヘルシード乳剤	20倍	10分間種子浸漬	浸種前	1回	ペフラゾエート(1回)(3)
	200倍	24時間種子浸漬			
	7.5倍	塗沫処理			

【農業使用に関する注意】

参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容についての細心の注意をはらっていますが、農業を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農業の誤った使用を行わないようにしてください。

農業散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農業が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

農業の新しい安全性評価導入等にもとない、直ちに使用方法を変更するよう注意喚起される場合があります。その場合は、ラベルの使用法ではなく、変更後の使用方法に従って使用してください。注意喚起の有無は、農業の購入先や茨城県病害虫防除所のホームページ等で確認してください。

県西地域の広域講座として農業学園(ICT講座)を開催しました！

10月26日(火)に、結城普及センターで、第5回講座「ICT研修」を開催しました。講座では、ICTを活用した農業経営について学びました。また、古谷農業経営士をお招きして、「ICTを利用した今後の米作り」というテーマで講演を頂き、ご本人が導入しているKSASについて説明を頂きました。

質疑応答では、「KSAS導入にあたり苦労したこと」「KSASのメンテナンスについて」等の質問があり、学園生からの関心が高い様子でした。

※KSAS = クボタの営農支援システム



写真:現地研修の様子

先進農家研修(露地野菜経営)

10月11日に、筑西市、桜川市、下妻市で新たに露地ネギ生産を開始した4名、関係機関を対象に先進農家研修を実施しました。

農業経営士である筑西市の高島重和氏を訪問し、ネギ生産の流れ及び露地野菜経営について研修しました。高島氏は、ご本人と特定技能実習生2名、技能実習生2名で、露地野菜(ネギ、キャベツ、ハクサイ)と水稲を作付けしています。ネギは周年出荷体系を取っており、契約栽培も行っています。

参加した生産者からは、ネギの栽培品種、病害虫防除や施肥等について多くの質問があり、丁寧に回答してくださいました。研修後には、「参加してよかった」「大変勉強になった」等の感想が聞かれ、ネギ生産を始めたばかりの生産者にとって有意義な研修となりました。

今後も普及センターでは、生産者の要望に沿った研修を開催し、新たな品目の導入支援を行っていききたいと思います。



写真:ネギ圃場視察の様子

ブドウの発芽促進剤のご紹介

春を迎え暖かくなると、発芽が始まりますが、良い果実を安定して採るためには、良好な発芽をさせることが重要です。ブドウの発芽促進技術として芽傷処理がありますが、その他に、シアナミド剤やメリット青などを結果母枝へ散布や塗布することによって、発芽率を向上させたり生育を早めることができます。シアナミド剤は12月までが処理適期とされていますので、1月以降はメリット青の塗布をおすすめします。※遅霜のある地域では十分に注意して使用してください。

令和3年度 茨城県農業経営士協会県西支部が 夫婦合同研修会を開催

茨城県農業経営士協会県西支部では、11月12日(金)の午後6時から、ピ・アーンジュYUKIYA(八千代町若)を会場に、農業経営士夫婦及び関係機関計59名を集めて夫婦合同研修会を開催しました。この研修会は、地域農業のリーダーとして県西地域の農業振興をけん引している農業経営士にとって役立つ情報提供を行うとともに、ご婦人方へ農業経営士活動の内容を理解頂くことを目的に実施しています。

今回は、「労務管理、外国人技能実習生の雇用について」をテーマに、社会保険労務士の宮島利博氏(土浦市)を講師に迎えて情報提供頂きました。

また、県からは、国の「みどりの食料システム戦略」の概要や、11月18日にオンラインで実施される第23回全国農業担い手サミットin茨城について、さらに、県西農林事務所公式Twitterの開設について情報提供を行いました。



写真:研修会の様子

(※)今年度も、コロナ禍での研修会となったため、検温や消毒、マスクの着用など染防止対策に務めて実施しました。

県西農林事務所 公式Twitter開設!

県西農林事務所公式Twitterを開設しました。県西地域の農業・畜産業・林業・農産物に関する情報を発信していきます。ぜひ、チェック、フォローをよろしくお願いします!

QRコード

アカウント名:
茨城県県西農林事務所

ユーザー名:
@ibanishi_nourin

